

慈溪徐福国際フォーラムに参加して

平成21年11月22日

伊藤健二

1 はじめに

2009年9月26日と27日、中国の浙江省慈溪市、中日友好協会及び中国徐福会主催で、「2009中国慈溪徐福国際論壇（フォーラム）」が開催されました。神奈川で徐福を研究している神奈川徐福研究会では、11人のメンバーでこのフォーラムに参加しました。フォーラムの後、現地旅行社に依頼し仏教聖地である普陀山や徐福像がある岱山、寧波市内にある道元が学んだ天童寺等を訪れました。今回の旅行は徐福にからむ旅ではあったが、いろいろとハプニングが発生し、また日中の習慣の違いなども興味深いものでありました。このレポートは、フォーラムの内容も含め、旅日記としてまとめたものです。

徐福とは：司馬遷の『史記』によると、2200年前、秦の始皇帝に、「東方の三神山に不老不死」の霊薬がある」と具申し、始皇帝の命を受け、3,000人の童男童女（若い男女）と百工（多くの技術者）を従え、五穀の種を持って、東方に船出し、「平原広沢（広い平野と湿地）」を得て王となり戻らなかったとの記述がある。徐福に関する伝説は、中国・日本・韓国に散在し、日本では青森県から鹿児島県に至るまで、各地に徐福が来たという伝承が残されており、佐賀では神として神社に祭られ、また和歌山県の新宮では徐福の墓があるなどの痕跡が見られる。

神奈川徐福会：神奈川県日本中国友好協会（以下県日中友好協会と記す）の任意研究会として2002年に発足した。学習会を定期的に行うとともに、徐福ゆかりの地へのバス旅行、内外で行われる研究会やシンポジウムへの参加等の活動を行っている。

2 神奈川徐福研究会としての参加者

- ・中尾安治 県日中友好協会副会長。元県会議員
フォーラム後の旅行は所用があり参加しなかった。
- ・田島孝子 神奈川徐福研究会会長。今回の旅行では、責任者であるとともに、細かな会計に至るまで仕切っていただいた。
- ・河野通広 県日中友好協会理事。神奈川徐福研究会事務局長
- ・三田 満 県日中友好協会理事。 神奈川徐福研究会会員
- ・中浜勝也 神奈川徐福研究会会員（浜松在住であるが、研究に参加している。）
- ・伊藤健二 神奈川徐福研究会会員
- ・石毛卓子 着物の着付け講師で、国際交流も行っている。今回のフォーラムでは神奈川徐福会の女性のメンバーの多くは着物を着た。
- ・川上由美 石毛さんの娘さんで、着付けの助手をしていただいた。
- ・西山百代 オペラを通じ、国際交流等を行っている。
- ・松本日世 会津徐福会会長で、会津と徐福の関係を研究している。
- ・須田育邦 上海在住で、慈溪徐福会館の理事長。上海の宿の手配などを行っていただいた。
フォーラム後の旅行は参加しなかった。

- ・孔晓明 通訳を依頼した上海在住の女性。旅行にも同行してくれた。

この他、神奈川徐福会会員で、中国に関し多くの著作がある池上正治先生がフォーラムに参加したが、フォーラムでの司会等多くの役割があり、我々と行動を共にできなかった。

3 成田から慈溪へ

9月24日（木）夕方成田空港へ集合。フォーラムは26日からであるので25日朝の飛行機でも間に合うが、時間的なゆとりがほしいことと、上海で一泊しても夕刻便の飛行機チケットの方が安くなることから、前日発とした。夜、上海空港に到着。須田さんと孔さんが出迎えてくれた。この日の宿は須田さんが手配してくれた上海の街中にある「錦江之星旅館（jinjian in）」。ビジネスホテルのようなホテルで、ツイン一泊で4～5千円と安い清潔感はある。このホテルはチェーン店で上海だけでも数十あるという。日本からもインターネットで予約ができるようなので、気軽に利用できそうだ。

翌25日はホテルの近くの飲食店で朝食の後、上海の街をぶらついたが、上海では万博が近いこともあり、信号を守ろうとか、ゴミをすてない、などのマナー運動が盛んで、街角に指導員が立っている。中国語でマナーは、「文明」といい、街角にも「文明」と言う文字が入った標語があちこちで見られる。

午後、今回のフォーラムの主催者である慈恵市人民政府がチャーターしたバスに乗り慈溪に向かった。「市人民政府」とは、日本の市役所のことである。昨年5月に杭州湾の海上に長さ 35673 mの杭州湾跨海大橋が完成したので、慈恵へは、3時間で行けるようになった。

この橋の長さは世界で二番目、海上橋としては世界一だそうだ。



上海、慈溪、寧波位置図

夕刻、宿泊先の達蓬山大酒店に到着して、参加手続きを行った。達蓬山とは、ホテルの近くの徐福文化園のある山の名前で、「蓬萊に到達する」から来たそう。蓬萊とは、東海（東シナ海）にあり、仙人が住み、不老長寿の薬があるという所。徐福はここから不老長寿の薬を求めて蓬萊に旅立ったと言われている。



ホテルの窓からは、湖と遊園地が見える

このホテルは五つ星のリゾートホテルで、隣接する遊園地とともに、この日が開業日だ。客は我々の徐福関係者と、達蓬山にある寺の開眼供養に集まった坊さん集団の2団体だけのようだった。ホテルの部屋は、非常に豪華なものだったが、慈恵市に払った料金は、全食事の二泊と上海までの送迎を含め600元（約9000円）。しかしこの値段では五星ホテルの一泊分にもならない。差額は慈恵市が負担したとも考えられない。このホテルと周辺のデスニーランドのようなテーマパークを一括開発した業者が、中国徐福会の副会長を行っているので、おそらくこの業者が破格の値段で請け負ったのだろう。

4 徐福フォーラム

26日朝、ホテルの豪華な会議室でフォーラムが始まった。主催は慈恵市人民政府、中日友好協会及び中国徐福会で、参加者は日本から60名ほど、韓国からは25名ほど、中国の方を合わせ全体では200名を越えた。（韓国には徐福が済州島を経由したという伝説がある。）フォーラムは日中韓それぞれの同時通訳で行われたが、専門的な用語が多く、通訳さんは大分苦労していたようだ。



羽田孜先生の代理で表彰を受けた田島氏

午前中は慈恵市長等の要人の挨拶等と、表彰式が行われたが、羽田孜前総理も受賞し、神奈川徐福会会長の田島さんは和服姿で代理で表彰を受け、この後羽田孜前総理のメッセージを代読した。

午後は第一節として全体の主題に関し、中国徐福会副会長や、徐福研究者の辻志保先生等の発言があり、その後專題発言として、日中韓の各地の徐福会や徐福研究者から研究発表等が行われた。池上正治氏が專題発言の後半部の司会を行ったが、名司会ぶりが印象的だった。神奈川徐福会からは、河野氏が「徐福と富士古文献」の題目で発表を行った。論文の内容は前日配布された論文集に日本語と中国語で掲載された。この他、発表は行わなかったが、この論文集には、神奈川徐福会からは、田島孝子氏と池上正治氏共同の「一つの徐福伝説の蓬莱島―瀬戸内海祝島を訪ねて」、前田豊氏の「徐福集団と日本の古史古伝との



発表する河野氏

繋がりに関する考察」、中浜勝也氏の「日本書紀・富士文献を対比で検討する神話・天孫降臨と筑紫高千穂への遷都」が掲載された。フォーラムの最後の質疑時間はあまり残されていなかった。フォーラムとしては実質半日であり、学術研究というよりイベント的な印象を受けた。徐福については、司馬遷の史記等の中国の歴史書以外に学術的な資料はないので、研究対象の多くは各地に残る徐福についての伝説、民話などである。主催者挨拶でも、徐福研

究の意義は、友愛、平和、交流促進にあるとしており、研究というより友好と交流を行うことと、街の活性化がねらいのようだ。一部の論文では、では日本の弥生文化と当時の中国との関連に関するものがあり、徐福が文化を伝えた可能性を示すものとして興味を持てるが、徐福が直接伝えたかどうかは謎のままである。よくわからないから古来から各地で伝承や物語が生み出され、徐福がロマンの人と言われるのだろう。



神奈川徐福会の参加者

この日の夜、招待晩餐会が行われ、個々の参加者の交流が行われた。また壇上では日中韓の民俗芸能等が演奏等された。

翌27日は市がチャーターしたバスで、近くの達蓬山にある中国徐福文化園に行った。ここにはすでに徐福像が建っているが、新たに、「徐福東渡成功起航地」と書かれた石碑を建て、この日に除幕式が行われた。



徐福文化園の徐福像と除幕式会場



「祭天儀式」の再現

この後、徐福文化園内に秦の時代の儀式場を再現した「祈求壇」が設置されているが、ここで「祭天儀式」が実演され、巫女さんの様な女性が、祭壇に動物の肉等を捧げるなどの儀

式を行った。

最後に公園内にある施設や、隣接する寺院の塔に昇るなどし、昼前にホテルに戻り食事を
して、一連の行事は終了した。この徐福文化園は、大きな寺院に隣接していることもあり、
観光スポットとして開発されたようだが、しかし日本からは簡単に来れる場所ではない。

5 慈溪から寧波へ

① 徐福記念館

慈溪の市街地に、慈溪福記念館があり、
徐福についての紹介展示を行っている。こ
の記念館は、慈溪市人民政府が半額、須田
氏と田島氏が半額を出資して会社（八雲旅
遊開発有限公司）を設立し、須田氏が理事
長、田島氏が館長に就任して、2000年3月30
に開館した。記念館の入り口には鳥居が建
っており、一階に展示室と事務所、2階に
宿泊施設がある。この会社は、記念館の運営
だけでなく、徐福に関する教育活動、着物着物着付け等の日本文化の紹介、現在地元
政府と共同で日本の果樹の育成等農業交流を行っている。



慈溪徐福記念館内の事務室

② 河姆渡遺跡

27日のフォーラム行事終了後、午後慈溪市が
チャーターしたバスで寧波へ向かったが、途中河
姆渡（カボト）遺跡に立ち寄った。この遺跡は1973
年に発見された紀元前5000年ごろの稲作文化の
遺跡で、地名から河姆渡遺跡と名付けられた。

立派な博物館に発掘された陶器や土器等の生活
用品、紡織用道具、木の実等の食料、石の装飾品
などが展示されていた。陶器や土器には模様や動
植物等が描かれ、七千年前の文化の高さが感じられ



復元された高床式住居

る。外部には水田跡地、復元された高床式住居等復元された住居が配置されていた。以前は
古代中国文明といえば黄河文明であったが、近年、中原以外の各地にも高度な文明があった
ことが明らかにされている。特にこのあたりの稲作文明は日本に大きな影響を与えていたと
考えられ、弥生文化のルーツであるといわれている。最近発掘された大和の纏向遺跡の建物の
復元模型が新聞に載っていたが、河姆渡遺跡の復元住居も高床式であり、類似している。

先日インターネットを見ていたら、「弥生人が中国からきたのであれば、日本語が中国語
になっているはずではないか」という書き込みが載っていたが、渡来人は中国の中原から来
たのでないので、中国語を使っていたわけではない。当時の揚子江流域等周辺の言語はよく
分かっていないが、弥生文化の研究者である安本美典氏は、このあたりの言語は中国語とは
異なるアジア南方言語（ビルマ語系）であり、日本語は東北アジア語である基語に揚子江流
域の言語がかぶさったと指摘している。

秦の始皇帝が初めて言葉を統一したが、徐福が連れて行った童男童女も地方の出身者であろうし、中国語は話せなかったであろう。

③ 寧波

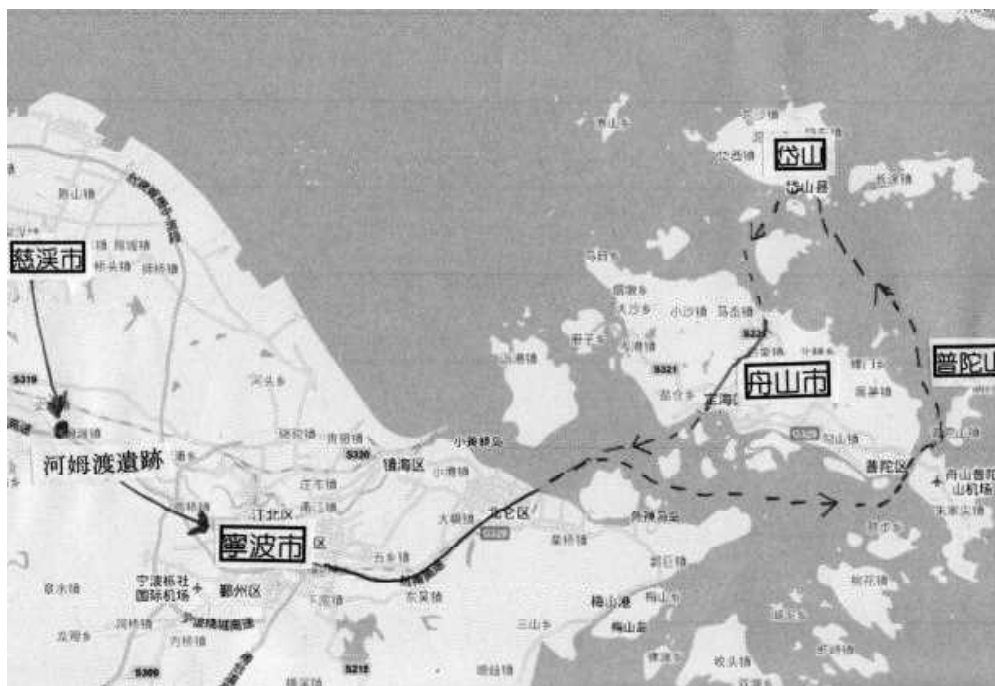
寧波（ニンポー）は古くからの港町で、遣唐使の上陸地点でもあり、また曹洞宗の開祖道元が学んだ天童寺があり、日本人にはなじみが深い。道元が上陸した場所（宋時代の港）に、現在記念碑が建っている。

近代には上海より古い時代から外灘（ワイタン：外国人の川岸の意味で、旧租界地）があり、寧波の外灘は老外灘と言われている。

近年ここを観光地として再開発し、昔の建物を利用し、おしゃれな飲み屋などが店を並べている。



道元禪師入宋記念碑



← 行経路
（概略図であり、正確なルートではない。）
舟山市の行政区画としては、普陀山、岱山も含む。

6 寧波から普陀山、岱山へ

28日から3日間は現地旅行社の手配による普陀山、岱山及び寧波市内観光を行った。依頼した会社は昨年中国の徐福関係者が来日したときの来日団の中の一員で、この会社が旅行会社だと思い、今回の旅行計画の手配を問い合わせたところ、自社は旅行会社ではないが、旅行手配を引き受ける、というものだ。メールでやりとりし、なんとか旅行計画がまとまった。しかし元々旅行会社ではないので、不慣れな点が多かった。旅行代金を支払うとき、領収書を準備していないなど、旅行社として基本的なことができていない。

旅行に参加したのは9人であるが、同行したスタッフは元請けの観光会社の社員、別の旅行社の日本語ガイド、彼女が妊娠中だったので、付き添いのお姉さん、さらに現地の案内人など、若い女性が4人という豪華？なものだ。

寧波に一泊後、朝早朝ホテルを出発。朝食はバスの中でお弁当。しかし饅頭のようなものが多く、食欲は進まない。港から舟で普陀山に向かう。山となっているが、島である。中国の四大仏教名山の一つで、島内に多くの寺院があるが、巨大な観音様が特に有名である。島内の循環バスに乗り、寺院を巡った。

夕方舟で岱山（タイザン）島に向かい、ここのリゾート風ホテルで一泊した。この島は漁業がさかんであり、海産物の料理がおいしかった。また浙江省の風景名勝区に指定されていて、山海の風光明媚な場所である。岱山島は徐福が立ち寄ったとされている場所で、大きな徐福の像が立っている。しかし訪れた時は、新たな建物の建設のための工事中であった。また既存の看板等の施設が痛んでおり、これも修理されるのであろう。完成後に再度訪れたいが、交通の便の悪いことだ。「地球の歩き方」にも載っていない。ここまで来る日本人はあまりいないだろう。

夕方乗り合い長距離バスで次の宿泊地である寧波に戻ったが、途中舟山本島を経由し2回フェリーを乗り継いだ。



入口の看板「岱山徐福記念」



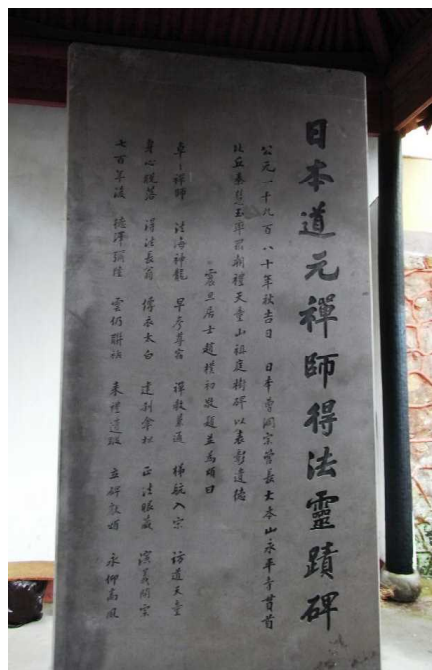
岱山の徐福像（東（左）を向いて立っている）

（写真はインターネットより取得）

翌30日は、先ず寧波市内の天童寺を訪れた。天童寺は曹洞宗の開祖である道元が修行した寺である。寺の周辺は何もない静かなところであるが、ここにテーマパークを建設する計画で、日本人村も作るそうである。現在日本から寧波へは交通の便があまり良くないが、来年日本から直行便が飛ぶそうで、日本人の観光客を見込んだ開発のようだ。日本人が容易に来れるようになり、楽しく観光できることは良いことであるが、静かな禅寺の周辺を騒がしくしていいのか、と複雑な気持ちになった。

この日は天童寺の他、阿育王寺（アショカ王の漢字）も訪れた。

天童寺にある道元に関する石碑→
「日本道元禅師得法靈蹟碑」



6 寧波から上海へ

帰りの飛行機は、4人が上海の飛行場、5人がより寧波に近い杭州の飛行場から帰ることとなっているので、ここで別れ寧波のそれぞれ異なった長距離バスターミナルに向かった。

上海組は上海行きのあるバスターミナルへ送ってもらい、旅行社ともお別れだ。この日は国慶節の前日で、バスターミナルは大勢の人でごった返していた。バスのチケットは旅行社が購入し渡された。出発時間が近づき、改札を通ろうとしたところ、何とこのチケットは3日後の日付であり、係員から待つように言われた。不安な気持ちで待っていたが、幸いなことに出発時間になっても乗車しなかった人が数人いたようで、我々は予定のバスに乗れた。寧波市内はこの時大渋滞だったので、乗り遅れた人がいたのだろう。しかし旅行社が間違ったチケットを渡すとはとんでもないことである。売ったバス会社の間違いだったとしても、旅行社が買ったチケットを確認するのは当然である。私もチケットを受け取った時、出発時間と行き先は確認したのだが、まさか日付が違っているとは夢にも思わなかった。幸い通訳の孔さんが同行していたので、状況が把握できたが、通訳がいなかったらどんなに心細かったであろうか。日付が間違えだとわかった時、いつもにこやかな孔さんは人が変わったように、旅行社に対して怒って電話した。孔さんが言うには、「自分は普段はあまり怒らないが、今回は怒った。」その後旅行社から孔さんの携帯に連絡があり、お詫びとして、バス代を返す、と行ってきた。帰国後旅行社にメールで、「我々は結果的にバスに乗れたので賠償の必要はない。しかし孔さんに御礼をしてください」と連絡しておいた。

上海周辺は連休前の大渋滞であったが。バスの中では毛沢東等の政治家を茶化した一人漫才のDVDを放映していた。中国もずいぶん自由になったという印象を受けた。やっと上海南駅に着き、そこからタクシーに乗るつもりだったが、渋滞を避け、重たい荷物をもって地下鉄で上海の中心部まで移動した。

夜10時過ぎにホテルに着き、近くの飲食店で遅い食事をとった。ビールを注文すると、店にないので、近所のコンビニで買ってこい、と言われ、買ってきて、コップを持ってくるように頼むと、コップがないからこれで飲めと、井を出された。井でビールを飲むのは初めての経験である。

杭州組も帰りは多くの交通事故を目撃するなど、大変だったようだ。中国旅行は、連休にかかる計画はなるべくたてないほうが無難だ。

7 おわりに

今回の旅行は徐福フォーラムの参加が主目的であるが、その後の旅行も大勢で、また通常のツアーでは行けない場所であり、有意義で楽しかった。メンバーは初対面の人も多く、堅苦しい雰囲気かと思ったが、皆興味の方向が同じなのですぐにうち解け、ほとんど毎日、部屋で飲みながら夜遅くまで楽しくお話したのは、楽しい思い出となった。現地の旅行社が不慣れで、快適とは言えない部分もあり、一般のツアーであれば苦情が出てたかもしれないが、皆旅慣れており、多少のトラブルはいい思い出に変わった。

最後に今回の旅行は何から何まで田島さんのご尽力によるもので、感謝して報告を終わります。

徐福伝説を「縁」とした地域と人のネットワーク ホームページの Event Report「2009年9月25日－27日 2009 中国徐福文化国際論壇の報告」に掲載された記事

2009年9月25日－27日、中国浙江省慈溪市の達蓬山大酒店において、

2009 中国徐福文化国際論壇が行われました。

この会議に合わせて会場となるホテルばかりか遊園地などの施設が全てオープンとなったようで、参加記念の写真撮影も遊園地の中で行われました。

これまで各地市政府のみなさんが中心となって運営されていた大会が、今回は企業による徐福への参入という新たな面を見ることになりました。

来年は徐福東渡 2220 年記念の年なのだそうで、来年への中国徐福会としての企画・抱負が宣言されました。

こうした企画案が出されたことそのものも新しいことでしたが、日本や韓国の参加者の代表を集めて意見を求める姿勢は長年徐福研究の現場に足を運んできた者としては実に感慨深いものです。

これまで尽力してきた徐福に関わる方々への表彰とともに、こうした進行ぶりに、新たな歩みが始まっていることを強く感じました。

参加者は日本から 60 名ほど、韓国から 25 名ほど、中国の方を合わせて全体には 200 名を超える大きな会でした。

参加者のみなさまお疲れさまでした。

以下、お知らせしていたものと一部変更がありましたので当日版を載せておきます。

(以下の日程は紙面の関係で一部省略しました。伊藤)

9月26日

(全体大会) 会议时间：2009年9月26日 09：30—11：30

主持人：中国徐福会副会长 张云方

日程：09：00 会议接待、参会人员签到

09：30 会议主持人 张云方 宣布会议开始、介绍与会嘉宾

09：35 中国徐福会会长 刘智刚 致辞

09：40 中共慈溪市委书记 洪嘉祥 致辞

09：45 日本国驻中国大使馆政务和総務参事 横地晃 致辞

09：50 韩国前统一部部长、韩中亲善协会会长 李世基 致辞

09：55 日本佐贺市副市长 古贺胜夫 致辞

10：00 中国国际徐福文化交流协会秘书长 曲玉维 致辞

10：05 文化部社团管理中心副主任 马俊英 致辞

10：10 中国徐福会副会长 李书和 宣读受奖单位和表彰词

10：15 中国徐福会副会长 周凤鸣 宣读受奖个人和表彰词

10：20 表彰 颁奖

受奖单位上台领奖。

佐賀県徐福会 西帰浦市徐福文化国際交流協会

連雲港徐福研究会 龍口市徐福研究会

宁波雅戈尔达蓬山旅游投资开发有限公司

发奖者：刘智刚 杨振亚 洪嘉祥 横地晃 马俊英

受奖个人上台领奖。

羽田孜 李世基 村岡央麻 三善喜一郎 石倉昭重

宮下長春 管正 張良群 蔡可卿

发奖者：刘智刚 杨振亚 洪嘉祥 横地晃 马俊英 王众一

张宇杰 横堀克己

10：40 受奖单位代表连云港徐福研究会副秘书长 陳博林 发言

10：45 受奖个人代表日本佐贺县徐福会会长 村冈央麻 发言

10：50 日本田岛孝子代表前首相 羽田孜 发言

10：55 中国徐福会副会长 宁波雅戈尔达蓬山旅游投资开发有限公司总经理 毕德祥 宣读中日友好协会贺信

11：00 日本佐贺县厅国际厅副课长 原恒久 宣读佐贺县知事 贺信

11：05 中国徐福会副会长兼秘书长 张美荣 宣读徐福东渡 2220 周年纪念活动的倡议书

11：15 全体与会代表照相

11：30 会议结束

12：00 招待午宴开始（地点：达蓬山大酒店宴会厅）

下午（论坛讨论）会议分三节举行

会议时间：2009 年 9 月 26 日 下午 14:00-17:45

第一节：主题发言

主持人：日本佐贺县徐福会会长 村冈央麻

14：00 中国徐福会副会长 张云方 发言

14：20 日本徐福研究著名学者 達志保 发言

14：40 韩国西归浦徐福文化国际交流协会 禹珪日 发言

第二节：专题发言

上半节 主持人：韩国济州道徐福文化学会会长 高应三

15：00 中国徐福会副会长、连云港徐福研究所所长 张良群

15：10 日本佐贺徐福会 和佐野喜久生

15：18 韩国巨济市徐福留宿地研究会顾问 李性辅

15：26 日本八女市教育委员会 赤崎敏男

15：34 前中国驻日本長崎總領事 日本中部大学教授 曾文彬

15：42 连云港徐福研究会 戚贵森

下半节 主持人：日本徐福研究著名学者 池上正治

16：00 慈溪徐福研究会秘书长 方印华

16：10 山东胶南琅琊暨徐福研究会会长 钟安利

16：18 中国徐福会副秘书长 方毓强

16：26 日本神奈川徐福研究会秘书长 河野通広

16：34 浙江象山县徐福研究会副秘书长 盛鑫夫

16：42 日本佐贺徐福会副会长 占部义弘

16：50 台湾徐氏宗亲会理事长 徐鸿进

16：58 慈溪市徐福研究会顧問 費志軍

第三节 讨论交流

主持人：中国徐福会副会长 李书和

17：35 中国徐福会会长 刘智刚 会议总结

9 月 27 日 上午：8：00 酒店大厅集合乘坐大巴至中国徐福文化园

上午：8：30 “徐福东渡成功起航地”揭幕仪式

上午：9：30 祭天仪式 地点：中国徐福文化园祈求坛

番外

発表論文の中に、日本の弥生時代との関連を述べたものもあったが、最近の研究では、弥生時代の始まりが500年さかのぼり、紀元前10世紀ごろとの説が有力になりつつあり、徐福が東渡した紀元前200年ごろの日本は、以前の時代区分では弥生前期であったが、最近の研究では時代は、弥生時代の

4050402201@jcom.home.ne.jp

田島様

旅行ではいろいろお世話になりました。楽しく、有意義な旅行だったので、旅行日記をまとめたいと思っていましたが、神奈川徐福会での発表がいいチャンスでした。

ようやく旅行日記の案ができあがりましたので、内容の確認をお願いします。

また、5ページに徐福記念館に関しての紹介も入れたいのですが、私は経過等を知りませんので、概略を教えてください。

皆さんの了解を得られましたら、この旅日記をインターネットのホームページ

にして公開しようと思います。徐福に関してのホームページは意外と少ないです。

11月6日

伊藤健二

西山百代 様

返信が遅れて申し訳ありませんでした。

今回の旅行があまりにも楽しかったので、旅行記を作成しています。

まだ完成品ではありませんけれど、とりあえず印刷して同封します。

また、写真2枚同封します。

この旅行記は、参加者の了解を得られれば、12月にインターネットホームページで公開します。もし西山さんが個人の名前を出したくないのであれば私に連絡してください。

また、何かご意見があれば連絡してください。

ホームページができあがったら、メールでご連絡します。

11月13日

4050402201@jcom.home.ne.jp

伊藤健二

松本様

先日はご丁寧なはがきありがとうございました。月餅を食べそこなったのは残念でしたね。

とことで、今回の旅行が有意義で楽しかったので、フォーラムの内容報告を含め旅行記にまとめました。寧波での周さんの街案内も有意義だったので、これも加えて編集したいと思いますが、とりあえず現時点でのものをお送りします。インターネットでは容量が大きすぎて送れないと思いますので、紙で送付します。

12月中にはホームページで公開したいと思っています。個人的な名称を出すことや、他にもご意見があれば連絡してください。

2009年11月20日

伊藤健二

石毛卓子 様

川上由美 様

先日の徐福の旅行ではお世話になりました。女性陣の着物姿が美しかったですね。

とことで、今回の旅行が有意義で楽しかったので、フォーラムの内容報告を含め旅行記にまとめました。12月中にはホームページで公開したいと思っています。個人的な名称を出すことに差し支えがあれば連絡してください。また他にも何かご意見があれば連絡してください。

2009年11月20日

伊藤健二